FM バックキャスト研修レポート

石巻赤十字病院

A グループ

[研修前の知識]

事前に東北大学病院(ASU)で研修をしていたが，地域医療・高齢者医療を担う地方病院でどのような取り組みがおこなわれているかの知識はなかった．また，災害医療における取り組みに関しても未知であった．

[研修の目的および到達目標]

本研修の目的は，地域医療の現場を実際に見学し，高齢者医療の実際を知ることである．さらに，東日本大震災を経験した石巻赤十字病院における災害医療の取り組みを知ることも目的とする．見学を通して未来の地域医療に求められるニーズを発見し，それを実現するためのアイデアおよび解決策を探索することを到達目標とする．

[研修内容]

[1 日目]
地域医療連携課の講義では，石巻市の高齢化率が 34%に達し，入院病床にも空きがほとんどない現状を知り，中核病院としての同院の重要性を実感した．患者の思いや生活に視点をおいた入退院支援が興味深かった．高齢者医療では医療に加え，介護・福祉との連携が不可欠であり，独居高齢者や未保険者など社会的リスクを抱える患者への支援が重要であることも学んだ．
院内設備の見学も行い，屋上に設置されたヘリポートや，移動中に処置が可能なドクターカーの機能を知った．医師がドクターカーに乗り活動する経験をすることが災害時の備えとなることは興味深かった．さらに，3.11 の被害を免れた免震構造も見学し，地震エネルギーを吸収する仕組みの効果を実感した．夜間救急見学では，救急救命士の活用など，医療スタッフの負担軽減の工夫を知った．

[2 日目]
乳房摘出術やバイパス手術の現場を見学した．ダヴィンチ手術支援ロボットの操作を体験することで，外科領域の技術革新を理解できた．災害医療に関する講義では震災当時の映像から事前訓練の重要性を学び，原子力棟では将来原子力災害が起きた際の備えについて知ることができた．検査部では検体検査が自動化されていること，そのメンテナンスが重要であることを学んだ．また，生理検査では，脳波や心電図の解析の解析業務の負担が大きいことを知り，AI 導入による効率化の必要性を感じた．さらに薬剤部では，高い専門性が必須となる業務の他に医薬品のピッキングや一包化などの定型業務が存在することを知り，機械の活用でその負担は軽減されつつあるものの，専門性の必要な疑義照会や持参薬への対応などにさらに注力できる環境が必要だと感じた．

[3 日目]
老人看護専門看護師から高齢者看護の実際を学び，せん妄や認知症患者への対応，身

体拘束の最小化の工夫（認知症マフ）などを知った．放射線科では CT，MRI，PET などの検査や，個別化された放射線治療の現場を見学し，技術革新の速さと専門職の知識更新の重要性を理解した．また、臨床心理科では病棟での業務に加え，東日本大震災や能登半島地震の際の記録を拝見し，被災地での業務の過酷さや遺族に寄り添う人材，環境の重要さを実感した．さらに脳神経内科では，急性期の疾患に対する医薬品によるアプローチについてお話を伺い，その限界や後遺症に対するアプローチの必要性について考えるきっかけになった．

[4 日目]
震災遺構の大川小学校を訪問し，災害の教訓を実感した．さらに南三陸病院では訪問診療に帯同し，地理的制約の大きい地域での医療提供の困難さと意義を学んだ．医師が自ら長距離を運転して診療に赴く姿は，都市部とは異なる地域医療の現実を示していた．

[5 日目]
今回の研修を通して発見した課題とその解決策をまとめ，発表し，議論をおこなった．

[研究や仕事などに活かせる点]

自身の研究テーマであるがん放射線治療の実際を見学することで，自身が開発する新たな技術が臨床でどのように活かされ得るのかイメージすることができた．また神経科学の視点から，脳神経内科での治療のお話を聞けたことで，ヒトにおいては研究で想定されるように特定の脳領域と機能が単純に一対一で対応しているわけではなく，神経回路が非常に複雑に働いていることを実感し，その中で自分が取り組んでいる細かな脳領域に関する研究がこの複雑な神経機能の理解に寄与し得る可能性を強く感じた．これらはより臨床応用に即した開発に繋がると考える．

[改善点・研修の限界]

時間的制約により，各診療科の見学は限られた範囲にとどまった．そのため，十分に理解を深められなかった領域もあった．また，課題の解決策を検討する際には，再度診療科を訪問して議論を重ねる機会がなく，実際の現場の視点から妥当性を検証することができなかった．結果として，考案した解決策の実現可能性や有効性について十分に検討できなかった点が本研修の限界である．

[まとめ]

石巻赤十字病院が地域と密接に連携し、急性期医療から高齢者ケア、災害対応に至るまで幅広い役割を担っていることを強く実感した。今後自らが医療に携わる際には、

患者を取り巻く生活や社会的背景に目を向け、地域に根ざした医療の在り方を意識していきたい。